

《キーワード》 口腔感染症、口腔バイオフィーム、嫌気培養、同定法、PCR法

《担当者名》 永野 恵司 宮川 博史

【概要】

微生物は感染により様々な疾患を引き起こし、特に、齲蝕や歯周疾患などの口腔感染症は、常在細菌叢により形成される口腔バイオフィームが原因となる混合内因感染であることが知られている。これら口腔バイオフィームを形成する細菌種の多くは通性嫌気性、偏性嫌気性細菌であり、難培養性の細菌種も多い。従って、口腔バイオフィーム細菌叢を把握するためには、嫌気性菌の培養法やPCR等を用いた遺伝学的手法を習得し、口腔感染症と構成細菌叢との関連を理解することが重要である。

本特論では、口腔細菌叢の特徴、病原性などを学び、その分類や検出法について理解を深めるとともに、その手法について習得する。

【学修目標】

- 1．口腔バイオフィームの感染症における役割について説明できる。
- 2．培養法による細菌叢の解析について説明できる。
- 3．細菌の生物学的性状による同定法を説明できる。
- 4．PCR法を用いた同定法や定量法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	口腔感染症における口腔バイオフィームの病原性		永野 恵司 宮川 博史
2	実験的なバイオフィームの形成とその解析		永野 恵司 宮川 博史
3	嫌気培養法による口腔バイオフィーム細菌叢の分離		永野 恵司 宮川 博史
4	分離した細菌種の生物学的性状検査		永野 恵司 宮川 博史
5	PCR法を用いた細菌の同定法・定量法		永野 恵司 宮川 博史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくことが望ましい。